



報道関係者各位

「エコマークアワード 2022」受賞者決定 ～持続可能な社会実現を目指す 7 件が受賞～

「エコマーク」を運営する公益財団法人日本環境協会（所在地：東京都千代田区、理事長：新美 育文）は、2022 年度のエコマークアワード受賞者を下記の通り決定しましたのでお知らせします。

エコマークアワード 2022 受賞団体・商品	
最優秀賞	フランスベッド株式会社 フランスベッドの環境への取り組み Action for SDGs
優秀賞	株式会社アークノハラ 人工芝用高速排水材「NHドレーン」が海洋汚染対策に貢献 ～人工芝が原因となり発生させるマイクロプラスチックを抑止～
優秀賞	シエラトン・グランデ・オーシャンリゾート 「緑豊かな黒松林を守り、育む。自然と共生するリゾート」 フェニックス・シーガイア・リゾート シエラトン・グランデ・オーシャンリゾート
優秀賞	品川区立山中小学校おやこエコクラブ 身近なエコマーク商品を探す「エコマーククエスト 2021」を通じた 環境問題の気づきと SDGs アクション
優秀賞	萩原工業株式会社 【業界初】ブルーシート水平リサイクル達成のためのモノマテリアルブルーシート
優秀賞	株式会社パンテック CO ₂ の排出を 28.7%抑制できる再生原料 50%配合の再生フレキシブル コンテナバッグ
ベストプロダクト	三菱油性ボールペン ジェットストリーム SXN-UC ROP [認定番号:21 112 006、21 164 003] 三菱鉛筆株式会社

エコマークアワードとは

エコマークアワードは、日本環境協会が 2010 年度に創設した表彰制度で、本年 13 回目を迎えました。

環境配慮商品の普及に関する優れた事例を広く公表するとともに、エコマーク商品のより一層の普及拡大を通じて、持続可能な社会の実現に寄与することを目的としています。

「最優秀賞」、「優秀賞」は、エコマークを通じて「消費者の環境を意識した商品選択、企業の環境改善努力による、持続可能な社会の形成」に大きく寄与する取り組みをした企業・団体等を表彰します。

「ベストプロダクト」は、2021 年度および 2022 年度に認定されたエコマーク認定商品の中から、特に環境性能や先進性、エコフレンドリーデザインなどが優れた製品・サービスを表彰します。

受賞団体の紹介について

12 月 7 日～9 日に開催される展示会「エコプロ 2022」のエコマーク事務局ブースにて、受賞団体を紹介。各団体の受賞につながる活動をご覧ください。





エコマークアワード 2022 受賞評価について

【審査方法】

エコマークアワード(最優秀賞・優秀賞)

2022年6月～7月の応募期間中、一般からの応募(自薦・他薦は不問)、またはエコマークアワード選考委員会(以下、選考委員会)による推薦があった団体の中から、選考委員会による一次審査(書類審査)および本審査(プレゼンテーション)を経て、受賞団体を決定。

ベストプロダクト

2021年度および2022年度に認定されたエコマーク認定商品から、評価ポイントおよび認定基準への適合状況等を勘案し、選考委員会で評価を行い選考。

【選考理由】

最優秀賞受賞

フランスベッド株式会社

フランスベッドの環境への取り組み Action for SDGs

フランスベッド株式会社は、2006年に初めてエコマーク認定を取得。現在は宿泊施設向け商品をはじめ、一般用マットレスでも認定を取得するなど、環境配慮商品の普及に力を入れている。

同社は、マットレスにおける環境配慮があまり考慮されていなかった時代から、素材の資源循環とロングライフ思想を製品設計に採り入れ、業界を先導してきた。マットレスはその大きさから廃棄時の処理に困ることも多いが、素材と構造の研究・工夫により、機能とデザインを損なうことなく、利用者が自分で分別・解体できる構造を実現していることに驚かされる。こうした工夫は、急速に普及しているサブスクリプションなどのサービタイゼーションと組み合わせられることで、より大きな効果を生み出すことになるだろう。

医療・介護分野では福祉用具のレンタルサービスの導入や、介護施設や病院での負担軽減や利用者の使い勝手の追求など、福祉や医療現場での貢献も大きく、社会的な観点からもより注目され、評価されるべき企業である。

優秀賞受賞

株式会社アークノハラ

人工芝用高速排水材「NHドレーン」が海洋汚染対策に貢献

～人工芝が原因となり発生させるマイクロプラスチックを抑止～

株式会社アークノハラは、再生材料を使用した人工芝グラウンド用ドレーン材「NHドレーン」にてエコマーク認定を取得した。

選考委員会としては、マイクロプラスチックによる海洋汚染について真剣に考え、製品開発を行っている志を高く評価したい。同社は、経年使用により破断した人工芝や充填したゴムチップが排水溝に流出することでマイクロプラスチックとなり、河川や海洋の環境汚染に繋がるのではないかと問題意識から、水は通すが人工芝の破片などは通さないドレーンの開発を思い立ったという。そして研究を重ね、グラウンドに求められる高い排水性能と、マイクロプラスチック流出を抑えるという、一見、相反するとも思われる機能の両立に成功している。原料に再生材を使用するなど資源循環への配慮にも抜かりはない。

直接目にするののない製品ではあるが、「地域の環境、地域住民、アスリートにやさしいグラウンドづくりの貢献」を目指したもののづくりが、持続可能な社会の実現に貢献するものと期待される。





優秀賞受賞

シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート

「緑豊かな黒松林を守り、育む。自然と共生するリゾート」
フェニックス・シーガイア・リゾート シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート

宮崎県の太平洋沿いに位置するシェラトン・グランデ・オーシャンリゾートは、地域の自然環境の保全に熱心に取り組むエコマーク認定ホテルである。
敷地内に植生する黒松林をかけがえのない財産として県・市と協力して保護に努めるほか、県指定天然記念物の「アカウミガメ」の産卵場所である海岸の清掃活動を行うなど、地域や宿泊者と取り組む自然との共生は、これからのサステナブルな観光の見本ともいえる。
リゾートエリアならではの貴重な自然資本を守りつつ、多様な環境配慮活動を推進するために、宿泊客に向けた丁寧な説明が実践されているのも本ホテルの特徴である。客室の適正温度の設定の呼びかけにエコマークを表示するなど、エコマーク認定を活用したコミュニケーションの数々は、他のサービス事業者にも参考となる。
スタッフの環境配慮意識の高さも印象に残っており、環境に配慮した備品の導入や館内のLED化、地元食材の利用、客室でのごみの分別の実施など、一つひとつの取り組みを全員参加で積み重ねてきたことで、環境との共生という理念がスタッフにも着実に浸透しており、さらなる取り組みを期待する。

優秀賞受賞

品川区立山中小学校おやこエコクラブ

身近なエコマーク商品を探す「エコマーククエスト2021」を通じた環境問題の気づきとSDGsアクション

品川区立山中小学校では「山中小学校おやこエコクラブ」として全校児童がメンバー登録し、SDGsに関わる学校教育プログラムや地域での課外環境活動を行っている。
感染症拡大により活動が制限される時期においても、家庭内でできることに取り組み、身近にあるエコマークを探すキャンペーン「エコマーククエスト2021」（日本環境協会主催）に参加。全校児童が商品についているエコマークを探す活動を行った。児童に配布されている教育用タブレットをうまく活用し、取り組みやすい方法を採用したアイデアも光っている。
商品に表示されたエコマークを発見する気づきから、仲間と分かち合うコミュニケーションの醸成、エコマークがついている理由や他の環境ラベルの調査、といった発展的な学びを生み出しており、マークを探すだけではない仕組みづくりは受賞に値する。
エコマークの理解が子どもから家庭、社会へ広がっており、コミュニケーションツールとしてのエコマークのあり方のヒントを提示している。地域と一体となった長期の取り組みを評価するとともに、今後の活動も楽しみである。

優秀賞受賞

萩原工業株式会社

【業界初】ブルーシート水平リサイクル達成のためのモノマテリアルブルーシート

2000年よりブルーシートでエコマーク認定を取得している萩原工業株式会社は、廃ブルーシートから新たなブルーシートを製造する水平リサイクルプロジェクト「Re VALUE+（リバリュープラス）」を推進。住宅メーカーと提携し、建築現場で使用されたブルーシートを回収再生するリサイクルスキームを構築している。
この「Re VALUE+」プロジェクトのさらなる発展のため、分別不要でリサイクルしやすい再生材料を60%以上使用したモノマテリアルのブルーシートを開発し、エコマークを取得した。一般製品で使用されるアルミ製のハトメを使わずに強度を確保するなどのアイデアと技術は秀逸であり、水平リサイクルの実現に向けた課題の解決において、一貫生産の強みを大いに発揮している。
災害復興に使用される製品でもあり、耐候性の向上を実現することで危険が伴う屋根や法面等への掛け替えリスクを低減し作業性を高めるといったユーザー目線での開発も怠らない。
水平リサイクルの回収スキームが建築現場からさらに土木、農業、産業用途や個人ユーザーなどにも周知・展開されることで、今後社会全体での広がりが期待できる。





優秀賞受賞

株式会社パンテック

CO₂の排出を28.7%抑制できる再生原料50%配合の再生フレキシブルコンテナバッグ

プラスチックリサイクルを主事業として展開する株式会社パンテックは、プラスチック廃棄物をごみとして処理するのではなく、資源として循環させる持続可能な社会実現のへ貢献を目指している。

ペレット等のプラスチック原料をはじめ、穀物や飼料、土砂などの粉粒体を大量輸送する際に使用されるフレキシブルコンテナバッグ(フレコンバッグ)はバージン原料主体で製造されることが多い中、使用済みフレコンバッグ由来の再生材料を50%使用した再生フレコンバッグを製造し、商品類型 No.105「工業用繊維製品」でエコマーク認定を取得した。強度が求められるフレコンバッグにおいて水平リサイクルを実現させるチャレンジを高く評価したい。従来型のフレコンバッグと比較して、新たな化石由来原料の使用を50%抑制、CO₂の排出を約28.7%抑制という見える化によるわかりやすさと、通常とは異なるブルーグレーの色味での差別化が、ユーザーとのコミュニケーションにも生きている。今後、使用済みバッグの回収と再生が一層進むことを期待したい。

ベストプロダクト受賞

三菱油性ボールペン ジェットストリーム SXN-UC ROP

[認定番号: 21 112 006、21 164 003]

三菱鉛筆株式会社

本商品は、国内で回収された海洋プラスチックごみとポストコンシューマープラスチック(コンタクトレンズの空ケース)を原料に使用したボールペンである。海洋プラスチック問題の解決に向けた強いメッセージ性と、社会に訴えるインパクトの大きさが選考委員会において高く評価され、本年度のベストプロダクト賞に輝いた。安定供給が難しく、劣化により品質が劣る海洋プラスチックごみをリサイクルする困難は想像に難くなく、製品化にこぎつけた事例も数えられるほどである。製品化を可能にした開発担当者の情熱と、同社の技術に拍手を送りたい。

また本商品は、製品に海洋プラスチックごみを10%以上使用し、文具業界で初めて「海洋プラスチックごみを再生利用した製品」認定基準で認定を取得しただけでなく、「文具・事務用品」認定基準におけるポストコンシューマープラスチック60%以上の要件にも適合し、両分野で認定を取得している。また、使用後のリサイクルを見据えて軸部分に金属やゴムパーツを使用しないという徹底ぶりで、全方位型のエコプロダクトに仕上げられている。手に取った方が環境配慮に関心を持ってほしいという想いを込めた、穏やかな海をイメージしたライトブルーの色合いや、コンタクトレンズの空きケースが再生されるという消費者の関わりが感じられる背景もよい。

エコマークワード2022表彰について

2022年12月より受賞者に個別に表彰(賞状、トロフィ授与)を行います。



エコマークアワード2022ページ

<本件に関するお問い合わせ>

公益財団法人日本環境協会 エコマーク事務局 事業推進課(広報担当)

Tel: 03-5829-6286 Fax: 03-5829-6281

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-10-5 TMMビル5F

E-mail: kouhou@ecomark.jp URL: <https://www.ecomark.jp/>



公益財団法人日本環境協会 エコマーク事務局

101-0032 東京都千代田区岩本町1-10-5 TMMビル5F

TEL:03-5829-6286 FAX:03-5829-6281 <https://www.ecomark.jp/>